

人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育

教育いちかわ



第3期市川市教育振興基本計画

～次のような方針を掲げています～

方針1 感性を豊かに働かせ、社会の中でたくましく生きていくことのできる子どもを育てる

方針2 “自分らしく輝くための学び”の環境の実現と学びのセーフティネットを構築する

方針3 社会の変化を見据えた教育環境の整備を図り、市川の質の高い教育を推進する

■発行
市川市教育委員会
■企画編集
市川市教育センター
〒272-0015
市川市鬼高1-1-4
TEL 320-3335

「Withコロナ時代」の教育活動

市川市こども作品展 オンライン配信!

「市川市こども作品展」は、市川市文化会館の改修工事のため、コルトンホールで開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防のため、今年度は「オンライン配信」に変更して開催します。



南新浜小学校の作品例

市立幼稚園・小・中学校・義務教育学校・特別支援学校の子供たちの図画工作・美術（平面・立体）、書写の作品などを紹介しますので、創造力豊かに制作した心温まる作品を是非ご覧ください。どのような作品が掲載されるのか楽しみです。
【指導課】

【こども作品展配信期間】
令和3年12月20日(月)
～ 令和4年1月31日(月)

【配信URL】
12月中旬頃
市川市教育委員会ホームページに掲載



信篤小学校「原木山妙行寺」

各学校で作品作りが進んでいます



調べてみよう!作ってみよう! 科学作品審査会

残念ながら2年連続で市内科学作品展は中止となりました。しかし、昨年度と同様に、

子供たちが夏休み期間中に取り組んだ作品を集め、9月10日(金)に千葉県立現代産業科学館にて市川市児童生徒科学作品審査会を行いました。科学論文・標本・科学作品の3部門に合計453点の出品がありました。夏休み期間だけでなく、日頃から取り組んでいる児童生徒も多く、完成度の高さに思わず感嘆するような作品がたくさんありました。

これからも身近な自然や科学に対して高い興味関心を持ち、探究する心に一層磨きをかけ、粘り強く挑戦し続けてくれることを期待しています。
【指導課】

【科学作品部門・優秀作品より】



家庭教育学級の指導員講座

「キャッシュレスで子供の金銭感覚が危ない!」
—親子で考えたい『お金の価値』—
(市川市立行徳小学校)

家庭教育学級とは、子供にかかわり合う大人が学び合う場です。家庭でのよりよい子育てについて考え、親として一緒に成長することを目指します。

市川市には校長経験のある2名の家庭教育指導員がおり、家庭教育学級の「指導員講座」において講師を務めています。各学校の要望に応じて、家庭教育に関する情報提供や相談対応を行います。今回は、行徳小学校において「キャッシュレスで子供の金銭感覚が危ない!—親子で考えたい『お金の価値』—」というテーマで行われた、指導員講座の様子をご紹介します。

当日は、「硬貨の製造費ってどれくらい?」「紙幣に描かれているのは誰?」など、お金に関するクイズから始まりました。「身近なお金について楽しく家庭で話題にすることによって、子供がお金に興味を持つきっかけとなるのでは」という指導員の話に、大きく頷いている方もいらっしゃいました。お小遣いの金額や使い道に関する調査データを見たり、お小遣いをあげることによって育つ子供の力の話を聞いたりしながら、参加した方々自身がお金の価値を改めて考えていた様子。最後は指導員から、キャッシュレス化が加速している時代であってもお金は大切なものであること、自分のお金には限りがあり、だからこそお金の使い方の計画が必要であるというメッセージが伝えられ、講座が締めくくられました。

講座終了後のアンケートでは、「資料を参考に子供とお金のことについて話してみたいと思います。」「お小遣い帳を書いて本当に必要なものだったかを親子で見直す、などの事をして、子供のお金の使い方を長い目で見ていこうと思いました。」などという声が寄せられました。親子でどのようにお金にかかわっていくか、考えるヒントが得られたようです。

市川市公式Webサイトのページには、子育てのヒントとなる動画や講座のお知らせ等が掲載されています。家庭教育指導員の講座も随時受付中です。詳しくは「市川市 家庭教育学級」で検索してください。

【講座の様子】



【学校地域連携推進課】

学校図書館 支援センター

市川市では、1950年代より、学校・地域・行政が一体となり、読書教育の推進に取り組んでいます。また、2006年度から教育センター内に学校図書館支援センターを置き、各学校の学校図書館運営の支援を行っています。2007年から発行している「学校図書館支援センター通信」を通して、各園・学校の取り組み等を紹介し、コロナ禍においても、様々な工夫をしながら学校図書館活用を進めている学校を紹介してきました。

「読書郵便」という形で、中学生が小学生に紹介したい本と手紙を送るという取り組みやオンラインを活用した作家講演会など、直接会うことが難しい中でもできることを考え、各学校で取り組んでいます。

学校でどのような読書活動に取り組んでいるのか興味のある方は市川市教育委員会のホームページをご覧ください。



↑「学校図書館支援センター通信」はこちらから

【教育センター】



塩浜学園グランドオープン!



平成27年度に小中一貫校として開校し、翌年度には県内初の義務教育学校としてスタートした塩浜学園ですが、一体型校舎の新築工事が今年8月末に全て完了し、10月29日(金)に新校舎落成記念式典が行われました。

当日は、記念式典・新旧児童生徒会役員交代式・記念撮影が行われ、5・9年生は会場での参加、他の学年は教室からオンラインにより参加しました。

記念式典では、ストーリー仕立てになった新校舎建設の映像や5年生による「お祝い太鼓」が披露され、会場から大きな拍手が送られました。

松井校長は、「『物事は感謝することからしか始まらない』という思いを、未来をつなぐ塩浜の子供たちに伝えたい。旧校舎の思い出や新校舎の好きな場所を大事にしてほしい。」と児童生徒に改めて「感謝」の重要性を伝えていました。

続いて、児童生徒会長は、「新校舎が完成したことで多くの変化があった。1～9年生が同じ空間で生活することだけでなく、お互いが尊重し合う姿に義務教育学校の意義を感じる。」という言葉とともに、「在校生は、旧校舎にもたくさんの思い出があるが、新校舎でも思い出と新たな伝統を作りたい。」と



お祝い太鼓(5年生)

新校舎建設にかかわった方々への感謝の気持ちや新たな決意を力強く語っていました。

その後、S・M・Lブロック代表による「感謝の言葉」があり、全校児童生徒の「感謝の言葉」が来賓代表者に盛大な拍手とともに手渡されました。

参加された来賓を代表して、田中教育長が、「塩浜学園の特長は、学年の枠を超えて、共に学び、共に生活するチームとしての姿である。児童生徒には、自分らしい夢を持ち、『心をひらき』、『人をつなぎ』、『学びをつむぐ』ことを大切にして夢の実現につなげてほしい。」と新校舎で学ぶ在校生にエールを贈りました。

塩浜学園の合言葉は、「ひらき・つなぎ・つむぐ」です。この合言葉をもとに、小中一貫教育によるつながりのある教育課程づくり、小規模校の特長を生かした、きめ細やかな授業づくり、コミュニティ・スクールによる地域と一体型の学校づくりをこれからも目指していきます。

【義務教育課】



「校章を描いた集合写真(来賓も含む)」



只今絶賛進行中!

「東国分爽風学園」の取り組みについて

令和3年4月よりスタートした「東国分爽風学園(東国分中学校、曾谷小学校、稲越小学校)」では、3校の先生方を中心とした「プロジェクト会議」を立ち上げ、教育委員会と連携しながら、様々な取り組みを行っています。

まずはじめに、東国分爽風学園の3校でめざす方向性を示した、「グランドデザイン」を作成しました。グランドデザインでは、東国分爽風学園の「学園目標」や、「めざす学園像」、「めざす児童生徒像」、「めざす教職員像」を示し、子供たちの学びの重点として、「生徒指導」、「学校・地域交流活動」、「学力向上」、「特別支援教育」の4つの柱を提示しました。今年度の後期より、このグランドデザインに沿って、できることから順次実施していきます。

次に、オンライン会議システムを使って、夏休み前に3校をつないで「合同オンライン集会」を行いました。夏休みの過ごし方について、各学校の生徒指導主任の先生や校長先生方が3校の児童生徒に向けて話をしました。児童生徒は、各教室にて大型提示装置に映し出された先生方の話を真剣に聞いていました。

また、夏休み中には、オンライン会議システムを使った、3校の先生方による「合同研修会」を行いました。「授業における学校図書館の有効な活用方法」について、各学校の学校図書館にある本を活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」の推進に向けた研修を行いました。

さらに、10月からは、中学校の教員による、小学校への乗り入れ授業を実施しています。中学校の数学科の教員が主となって、小学6年生の算数「比例と反比例」の授業を行い、小学校の担任は学級全体を把握しながら授業のサポートを行っています。小学校で授業を行っている中学校の教員は、「小学校と中学校の学習内容のつながりがわかり、今後の中学校での授業に役立つ機会となっています。」と話していました。



【教職員のオンライン研修の様子】



【オンライン集会の様子】



【中学校の教員による、小学校の算数科への乗り入れ授業の様子】

現在、グランドデザインに示された柱の一つである「学力向上」に掲げた「新しい教科」を令和4年度から実施するための検討も進めています。「新しい教科」は、3校の特色を生かすとともに、地域に根差した教科となるよう、学校と教育委員会が連携しながら話し合いを進めています。

今後は、小学校同士の交流や2校の小学校と中学校との交流、小学校と中学校との授業での連携、教職員同士の連携、そして、小学生の中学校の部活動への参加などについても検討を進め、3校の小中一貫教育の取り組みを推進していきます。

【学校環境調整課】

東国分爽風学園グランドデザイン

● 学園教育目標

『笑顔をつなぐ 未来へつなぐ 東国分爽風学園の学び』

● 「東国分爽風学園の学び」によりめざす将来像

「めざす子ども像」

- 主体的に考え、学び、伸びる。
- 心豊かで、幅広い年代と協働できる。
- ルールやマナーを守り、基本的な生活習慣を身につける。
- 心身ともに健康。

「めざす教職員像」

- 小中一貫教育の理解と研修に務める。
- 学園全体のチームワークを大切にする。
- 保護者・地域と積極的に連携・協働する。
- 心身ともに健康。

「めざす学園像」

- 系統性・連続性を重視した小中一貫教育の良さを、児童生徒・教職員・保護者・地域住民が実感できる学園。

● 「東国分爽風学園の学び」の4つの柱



農業・稲作体験活動

お米も野菜もたくさん収穫できました!



農業・稲作体験活動は、稲作や野菜作りを通じて、自然や人とのふれあい、勤労と収穫の喜びを体験することで、心豊かな子供たちを育てることを目的としています。農業・教員経験者等で構成されている「市川米っ人くらぶ」に業務を委託し、平成13年から大野町4丁目の小川再生親子ふれあい農園内で行われている事業です。



【ジャガイモ収穫】



【田植え】



【稲刈り】



【長ねぎ収穫】

稲作では、水田にて「代掻き」「田植え」「はぜ作り」「稲刈り」「脱穀」を実際に体験し、野菜作りでは玉ねぎやジャガイモ、南瓜、長ねぎ、落花生、さつまいも、大根等、季節に応じた野菜の植え付けから収穫まで年14回程度の活動を実施しています。さらに、農園内の環境や生態系を学ぶための野外学習「昆虫教室」を作業前に実施する活動日もあります。

今年の収穫量は、お米が479kg、玉ねぎ70kg、ジャガイモ600kg、南瓜120kg、長ねぎ200kg、さつまいも200kgなど、お米も野菜もたくさん収穫できました。

参加した子供や保護者からは、「農業・稲作体験を通じた自然とのふれあいや、作物への感謝の気持ち、収穫までにかかわった多くの方々への感謝の気持ち、教科書や本を読むだけでは学習できない貴重な体験ができた。」という声が数多く寄せられています。

【青少年育成課】



実りの秋 「ふれんど米」

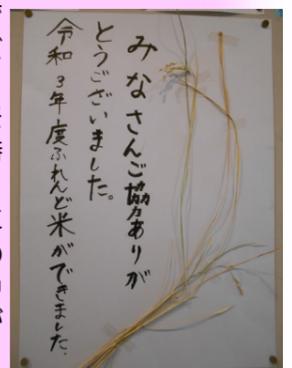


市川市適応指導教室「ふれんどルーム市川」では、小学生の子供たちを中心に、6月からバケツで稲を育てる体験活動をしてきました。「ふれんどルーム市川」で、バケツ稲を育てる活動は初めてのことで。



小さな稲の苗をバケツに植え、稲が育つ様子を毎日観察してきました。すくすく育つ稲を手で触ったり、じっと稲穂を見つめたりする子供たち。時には稲にくっついてたバッタなどに驚きながらも収穫の時期を楽しみにしてきました。

そして10月。いよいよ収穫となり、自分たちで育てた稲を丁寧に一粒残らず収穫を完了し、今はピンと割り箸を使いながら脱穀の作業をしています。ピンの中にある稲を割り箸で押しながら、もみ殻を取る作業はとても大変で、友達と交替しながら、時間をかけて作業を続けています。



土やバケツを提供していただいたり、稲の周りに生えている雑草を取っていただいたり、子供たちの活動を見守ってくださる人々の温かい支援の輪の中で、今回のバケツ稲を育てる体験活動を行うことができました。

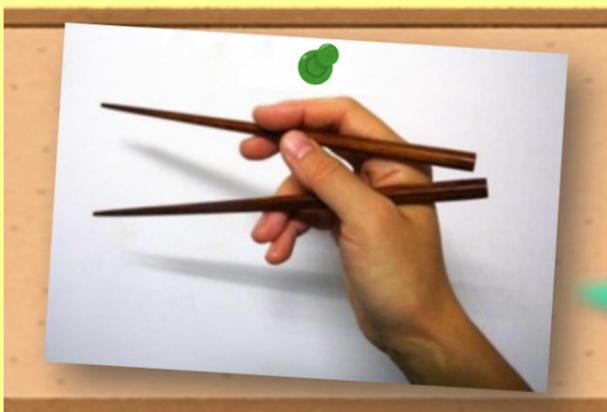
収穫した米、一粒一粒に協力してくれた周囲の人たちへの感謝の気持ちを子供たちにも持ってほしいと願います。

【ふれんどルーム】

おはし名人になろう

日本人が昔から使用してきた箸は、小さな2本の棒にすぎませんが、スプーンやフォークに比べてはさむ、つまむ、すくう、まとめる、おさえる、ほぐす等多様なことができます。日本人の手の器用さを支えているのは、子供の頃から箸を使っているからといわれ、日本人の食生活と箸は密接にかかわっています。

学校給食では、毎日のように箸を使って食事をし、和食マナーの基本ともいえる正しい箸の持ち方を身につける機会となっています。そんな箸の持ち方指導に「地域における食育推進事業」の推進校である新井小学校が取り組みました。



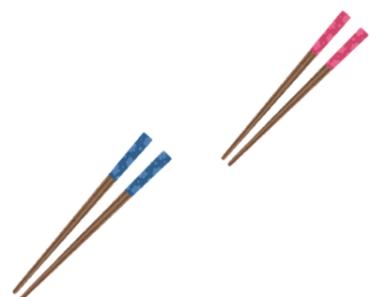
子供たちは栄養教諭の示す正しい持ち方ができるよう、繰り返し箸を動かし、友達と練習に取り組んでいました。

箸が正しく使えると、適量を口に入れ、こぼさずに食べることができます。食べることを楽しいと感じ、箸の持ち方への意識が高まっていくことを願います。

【保健体育課】

＜正しい持ち方のポイントは3つ＞

- 1 2本の箸のうち上の箸を鉛筆の持ち方で持ち、縦に動かせるようにする。
- 2 下の箸は親指の付け根と薬指で支え、動かさない。
- 3 2本の箸の間に中指が少し入る。



子供に関わる相談

～お子さんのことで不安や悩みごとをお持ちの保護者様へ～

コロナ禍において、子供たちを取り巻く環境は大きく変化しました。手洗いの励行、手指の消毒、マスクの着用、「密」を避けるなど、「新たな生活様式」や感染防止対策が定着している状況の中で、子供たちも学習活動に取り組んでいます。

このような状況下において、周囲の理解不足によるいじめ、心を開放しきれないことからの登校渋りや不登校、その他の様々な悩みによって、心を痛めている子供たちもいます。

保護者の方がそのような不安や悩みごとをお持ちのときは、教育センターの教育相談にご連絡ください。専門の相談員が、不安な悩みごとに寄り添い、お話を伺います。

また、市川市適応指導教室「ふれんどルーム市川」は、様々な要因により、学校への行きづらさを感じている子供たちにとって安心できる学びの場として市川市生涯学習センター3階に開設しています。

◆教育相談(火～土 午前9時～午後5時)

＜来室による面接相談(要予約)＞
予約TEL: 320-3336(教育センター)
318-3223(行徳相談室)
対象: 3歳～中学校3年生



◆ほっとホッと訪問相談(火～金 午後12時30分～午後5時)

＜電話・訪問相談＞
TEL: 320-3362
対象: 小学校1年生～中学校3年生

◆ふれんどルーム市川(市川市適応指導教室)

TEL: 320-3336(火～金 午前9時～午後5時)
320-3335(月のみ 午前9時～午後5時)
開室日: 月～金 午前9時15分～午後2時15分
対象: 小学校4年生～中学校3年生
【教育センター 相談グループ】



いちかわGIGAスクール構想における タブレット端末家庭使用Q&A

【使い方について】
Q 好きなアプリケーションをインストールできますか?

A フィルタリングソフトによりアプリケーションのダウンロードには制限がかかっています。また、USBの使用制限もかかっています。アプリストアの中には学習に関する無料アプリケーションを入れてありますので、ダウンロードした上で使用することができます。

Q タブレット端末はどのような用途で使用するのですか?

A 学習に関わることに使用します。自分の考えをまとめたり深めたりすることができます。学習したことをアウトプットすることにも活用できます。授業における「協働的な学び」のほか、ドリルソフト等を使用し学習したことの復習にも使えます。また家庭学習でもご利用いただけます。家庭学習に関しましては、「家庭学習活用ガイド」をご覧ください。



『悩み相談@いちかわ』

教育委員会では、令和3年10月1日から令和4年3月31日までの期間で、「LINE」による相談窓口を開設しました。各学校では、相談期間前に、右記のような資料を対象の児童生徒に配付しました。

専門の相談員が、悩みごとや困っていることを受け止め、どうすれば良いのかを一緒に考えます。



*** 悩み相談@いちかわ ***

- ＜相談期間＞
- 令和3年10月1日(金)～令和4年3月31日(木)
- 毎週 月・水・木・金 (年末年始を除く)
- 午後5時～午後10時 (受付は午後9時まで)
- ＜相談対象＞
- 市内小学校・中学校・義務教育学校 5年生～中学校3年生(私立も含む)
- 市内特別支援学校 小学部5・6年生 中学部・高等部生徒

また、少年センターでは、他にも小学校1年生から20歳未満の少年を対象に、専門の相談員が電話・メール・面接による相談も行っています。お子さん自身からの相談や、お子さんにかかわる大人の皆様からの相談をお受けしています。

少年相談

- ＜受付日時＞
- 月火木金 午前9時～午後5時
- 水 午前9時～午後7時
- 電話番号 047-320-3340
- メール youngnet@city.ichikawa.lg.jp



【少年センター】

Q 動画視聴ばかりして、勉強に活用しなくて困っています。

詳しくは、こちらのQRコードから

A 動画視聴の制限をかけてしまうと学習コンテンツを視聴できなくなってしまいます。学習用であることを踏まえ、タブレット端末との上手な付き合い方も学校で指導していきますが、ご家庭でもお声がけください。

★家庭での使用マニュアルも市川市教育委員会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。【教育センター】



★小・中学校の講師募集★

～あなたの教員免許を生かし、市川市の子供たちのために働きませんか～

【募集職種】

- (1) 県費講師：産前産後休暇等の代替(要・教員免許状)
 - 常勤 38時間45分/週
 - 給与 月額20万円程度～(経験による) 交通費有
 - 会計年度任用職員(非常勤講師) 10時間勤務/週3日 29時間勤務/週5日
 - ※定められた教科の授業や、妊娠教員の授業補助を行う非常勤の講師
- (2) 市費補助教員：教科指導のサポート・学級担任の補助等(職種により、要・教員免許状)
 - 週2日～(最大5日35時間) 午前8時15分～午後4時
 - 給与 時給1,100円～1,450円(職種による) 交通費有

市川市教育委員会では、市内の公立小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校に勤務できる講師等を募集しています。

【応募方法】

○義務教育課・教職員班へ電話でご連絡ください。OTEL 047-383-9261



【その他】

○登録後、すぐに採用されるものではありません。
○詳しくは、市川市教育委員会ホームページをご覧ください。